

令和6年4月15日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

茨木市長 福岡 洋一

市町村名 (市町村コード)	茨木市 (27211)	
地域名 (地域内農業集落名)	清阪 (清阪)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年4月14日 (第1回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・今後、引き続き自ら耕作する意向のある農地の面積が1.78haであるのに対し、休耕・貸借・売買の意向のある面積は3.64haとなっており、新たな農地の受け手の確保が必要。
・不整形で面積の小さい農地が多く、大規模な営農を行いつらい。
・大型の機械を入れられない場所がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

有機農業を行っている耕作者が複数人おり、地形の条件的にも有機農業との親和性が高いことから、特に有機に興味のある地域農家や認定新規就農者を積極的に受け入れ、特色ある地域農業の構築をめざす。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	9.34 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	7.37 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
地域農家や認定新規就農者など、新たな担い手が現れたときは、担い手の意向も確認しながら、できる限り農地を集積していく。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
地域計画策定後は、貸借の意向がある農地をみどり公社に貸し付ける。その際は所有者の貸付意向時期に配慮する。
(3) 基盤整備事業への取組方針
農道や水路等、基盤整備可能な箇所については整備済み。作業道など未舗装道路について、舗装等の実施を検討する。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
市の地域農家制度と連携し、就農希望者の研修や援農希望者を積極的に受け入れることで、地域に愛着を持ってもらい、農業を担う者として定着してもらえよう取り組んでいく。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
作業の効率化が期待できる作業については、今後委託等の手法を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

②地理的な特徴を生かし、特定の区画で有機農業を進める。